

辺野古移設 日米発表

普天間 8月に工法確定



名護市辺野古にある米軍キャンプ・シュワブと沿岸部＝3月

日米両政府は28日、米軍普天間飛行場移設に関する共同声明を発表した。移設先を名護市のキャンプ・シュワブ辺野古地区とこれに隣接する水域とし、1800メートルの滑走路を建設すると明記。シュワブ沿岸部を埋め立てる現行計画の3年近くに及ぶ環境影響評価の手続きを著しく遅らせないとして移設地域を限定し、8月末までに位置と工法の

検討を完了させる方針を示した。ほぼ現行計画通りに埋め立てる構想を軸に調整する。発表に先立ち、鳩山由紀夫首相とオバマ米大統領は電話会談し、共同声明の内容を確認した。首相が過去に「最低でも県外」「辺野古の海を埋め立てることは自然に対する冒瀆」とした発言に明確に反した合意で、政治責任は避けられない。

外務、防衛担当閣僚による次回の日米安全保障協議委員会(2プラス2)までに移設計画を確認すると明示。国連総会が開かれる9月を想定している。

声明には普天間代替施設を念頭に、自衛隊との共同使用の検討も盛り込んだ。沖縄の負担軽減策として、米軍の沖縄県外への一部訓練移転を明記。沖縄県からの要望を受け①沖縄本島東

知事「極めて厳しい」

仲井真弘多知事は「実行するのは極めて厳しい。地元と十分な意思の疎通とか合意とかなく、頭越しめという印象を強く持っている」との見解を示した。東京都内で記者団に述べた。

名護市長「実現性ゼロ」

稲嶺進名護市長は「県民に対する裏切りで、到底受け入れられない。14年間全く進まなかったものを今更辺野古だといっても、実現可能性はゼロだ」と強い怒りを示した。

福島氏「とても残念」

社民党の福島瑞穂党首は「辺野古に始まり、辺野古に戻るとは思わなかった。とても残念だ」と国会内で記者団に述べた。

日米共同声明のポイント

- 普天間飛行場の代替施設の滑走路は1800メートルとし、沖縄県名護市のキャンプ・シュワブ辺野古地区とこれに隣接する水域に設置
- 代替施設の位置と工法の検討は8月末までに完了
- 現行計画の環境影響評価の手続きを著しく遅らせない
- 鹿児島県・徳之島を含め、海兵隊などが在沖縄米軍の県外への一部訓練移転拡充。グアムなど国外移転も検討
- 外務、防衛担当閣僚による次回の日米安全保障協議委員会までに移設計画を確認
- 沖縄本島東にある米軍訓練水域の一部を返還

